腎臓内科・透析科・透析外来

部長　吉村　和修

はじめに

慢性腎炎、ネフローゼ症候群の診断、治療から慢性腎臓病の進行をおさえる治療、また残念ながら腎機能が高度に低下してしまった場合の血液透析療法､腹膜透析療法まで腎機能の程度に応じて「ゆりかごから墓場まで」腎臓の治療を行います。また、他の領域の疾患に伴う急性腎障害など幅広い領域に対応できるように心がけています。

腎臓内科・透析科・透析外来とは

腎臓は尿をつくる臓器であり、そのことを通じて体液量のコントロールや電解質、酸塩基平衡の調節を行っています。このため、その障害はからだのむくみ（浮腫）や心不全、高血圧に加え様々な症状を引き起こします。腎臓内科では、その慢性腎炎やネフローゼ症候群などの病態に対し、腎機能の悪化や蛋白尿の減らすよう治療します。また、慢性腎臓病（CKD）というすでに一定以上腎機能が悪くなった状態に対して､血圧のコントロールや各種薬剤の投与によりその進行を遅らせ、腎機能低下の結果おこる体液貯留や腎性貧血、骨代謝障害など合併症に対する治療も行います。そのような治療にも関わらず最終的に腎機能が高度に悪化した場合には、血液透析や腹膜透析といった腎代替療法の導入を行います。透析科は、その中で血液透析を主に担っている部門で近森病院では常時 70－80 名の患者さんが血液透析療法を行っています。そのうち 20－30 名が通常は他院で血液透析を行っている方で、何らかの急性期の病期のため近森病院に入院しています。その間の透析療法の維持を透析科として主科と一緒に行っています。また近森病院では重症患者も多いため､そのような患者さんが多臓器不全になり急性腎障害を合併する場合の一時的な透析も行っています。また神経疾患やその他難病とされる疾患に対して血漿交換などの特殊な血液浄化療法も透析科で行っています。透析外来では、主に腹膜透析の患者さんを外来中心に治療しています。

腎臓内科外来

血尿、蛋白尿などの検尿異常などから腎生検の相談、ネフローゼ症候群や慢性腎炎の治療から CKD の治療、末期腎不全の療法選択などの相談など行っています。

透析科

入院・外来ふくめ常時 80 名程度の方が血液透析療法を行っています。

透析外来

主に腹膜透析療法の方の外来加療を行っています。

学生教育

高知大学医学部、群馬大学医学部、東京女子医大などの学生の実習を受け入れています。腎臓や血液透析などの理解を深めることで、プライマリーケアとして重要な輸液や電解質異常、体液管理の実際などを体験できるよう努力していきたいと思います。

高知大学および近森病院看護学校にて腎臓領域の講義を一部担当しています。

今後の展望

最近は末期腎不全の治療における療法選択（血液透析・腹膜透析・腎移植・保存的腎臓療法）を患者さんとともに選んでいく SDM（Shared Decision Making、共同意思決定）の必要性が認識されてきています。腎移植は当院では行っていませんが、その説明・必要に応じた紹介などを通じて末期腎不全の療法選択を患者さんにとってより満足のいく選択ができるよう療法選択外来などを通じて努力していきたいと考えています。